

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第4回会議 議事要旨

日時	平成28年3月28日(月) 午後1時30分～2時45分	場所	本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議委員	内田委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本委員（清須企業懇話会幹事） 北山委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田委員（中日信用金庫理事長） 平野委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）	
	清須市	市長、企画部長、事務局	

1 開会

- あいさつ（市長）

2 議題

(1) 今後の清須市のまち・ひと・しごと創生に向けた取り組みについて

- 資料説明（事務局・横幕主任）
- 委員意見・座長総括（各委員、内田座長）

①総合戦略に基づく平成28年度の主な取組内容について

山本委員	4つの基本目標は、全体として攻守のバランスがとれている。その中でも攻めの性格を持つ基本目標①のシビックプライドが重要と考えるので、企業市民としても関わってきたい。進捗状況に応じたKPIの調整も重要で、理由がしっかりしていれば、下方修正も含めて柔軟に考えるべき。
北山委員	地域資源を活かした教育活動を行っているが、戦略の考え方は学校教育にも通じる点が多くあり、学校と行政の連携を支援する仕組みが更に機能すると有り難い。
舟橋委員	今後の取り組みには、市民やボランティアの力も必要である。既存の取組も含めて、行政の活動をできるだけ見える化し、市民への周知と理解を得ることが重要である。
山田委員	今の若者には経験を通じて実感する機会が少ない。学ぶ機会を提供し、若い世代が知る喜びや夢を持って生活できる清須市になってほしい。
平野委員	基本目標④安全・安心を着実に進めてほしい。基本目標③シニア世代の社会参加は、制度によって参加状況は変わるため、具体的な制度設計をしっかりと行っていただきたい。
【内田座長総括】	
市民のシビックプライドの醸成には、外からの目線も重要である。外からの情報で市民の認知度向上や自信にもつながるので、清須学講座・マイスター認定等の事業は、あまり対象を限定しない方がよい。メディアを活用した情報発信、地元の大企業や金融機関の協力も大切である。戦略の中心に位置付けられる清洲城には、甲冑体験などの資源もある。職員のコスプレで雰囲気づくりをしたり、定期的な朝市の開催等で、テーマパークのようなPRができるまちづくりを目指してもよい。	

②総合戦略への位置づけに関わらず、4つの基本目標の実現のため、今後さらに力を入れるべき施策について

山本委員	計画の策定にとどまらずPDCAサイクルに基づく実行が重要となる。目標値を継続的に見直し、伸びるものはより高く、達成困難なものはその要因を検討し、必要であれば適正な数値に設定し直すことも必要である。
北山委員	戦略提言会議で若年層の声を聞く機会があったが、人とのふれあい、交流が苦手な人が増えている。あらゆる課題の根本は教育にあり、教育は人を育てることが使命なので、何ができるのかを行政との連携も含めて考えていきたい。
舟橋委員	シビックプライド醸成やシニア世代の取り組みは、注力によりある程度の成果は期待できるが、少子化の問題は全国的にも深刻であり、基本目標②は、一番大切で、腰を据えた取り組みが求められる。若年層が楽しみを見出せるようなまちづくりが必要である。
山田委員	かつて聞いた「わしは清須が好きじゃ」という住民の方の言葉が原点。この点を若い人にどう働きかけるかが重要。郷土愛を抱くと、もっとまちを知りたいという気持ちになる。中央発信の情報発信ばかりでなく地域からの「逆情報発信」によって、楽しみや生きがいの発見につながれば、清須を愛する人をつくりだすことができる。
平野委員	幼少期から学齢期に住んでいた土地を良い場所だと感じれば、いったん市外に出てもいつかは戻ってきたいという思いが生まれる。出会いが少ないと若い世代が感じているということがデータ等で明確なのであれば、今後、行政、企業等で支援を検討する必要もある。

【内田座長総括】

計画の目標値は、訪日外国人客の動きや為替等、外的な要因の影響も受けるため、実行段階で柔軟に対応できるかどうかにより、成果は大きく変わってくる。清須に住む人も市外に出ている人も、郷土愛を持ってPRすることが、いずれは定住人口の増加にもつながると期待できる。

3 閉会